

第10回 都市交通・市街地整備小委員会

議事の概要

(事務局作成)

以下の内容について資料説明後、討議

- 1 小委員会における審議のポイントととりまとめの方向
- 2 報告書骨子(案)について

討議の概要は、以下のとおり

(概要)

1 全体を通して

○集約型都市構造への転換ということを報告書のタイトルにしてはどうか。
また、ダイジェスト版をキーワードが目立つように作るべき。

○具体の数字は難しいと思うが、集約型都市構造への転換により、どれだけ行政コストが縮減されるかなどの相場観があったほうが説得しやすい。

2 集約型都市構造への転換

○集約型都市構造の実現効果として、
・空間の効率性(集約化)と時間的な重点化
・エリアマネジメントや公民パートナーシップなどについて、より得意と人するが担うことで、効率化が図られ社会的費用対効果が最大化することが考えられるが、その点が明確になった方がよいのでは。

○地方公共団体に土地利用と交通とをセットで、思い切って行ってもらうために、「国の支援のあり方」等への書き方の工夫が必要。

3 都市交通施策のあり方

- 幹線道路整備の必要性について整備すべき。また、道路整備に伴う沿道の建築のあり方も考える必要があり、道路整備に伴って沿道がきれいになるような方策も考えたほうがよい。
- 駐輪場も駐車場と併せて整理すべき。
- バイクの駐車場についても整理すべき。
- 公共交通の公益の評価手法の検討も入れてみてはどうか。

4 市街地整備施策のあり方

- 今後、市街地面積の総量は減るが、増える土地利用（ニーズ）もある。それを組み合わせて市街地整備の計画・事業と結びつける取組が必要ではないか。
- 美しい街並み形成のために、電柱の地中化も進めるべき。
- 木造密集市街地についての基本的な問題をきちんと書いておくべき。
- 郊外市街地については、
 - ・まずは新規開発の抑制が大事で、
 - ・次に住宅市場を考えた長期的なスパンでの計画とマネジメント
 - ・それでも対応できないものはシュリンクという手順ではないか。
国土利用計画の議論では都市部の面積がまだ増えるという見通しもあり、まず開発を抑制することが重要ではないか。
- ミニ開発について、「21世紀の負の遺産とならないように」防止する手だてを書いておくべき。
- 今後の検討課題として、二つ以上の整備手法をリンクさせて、相乗効果により事業展開を図る手法の創設を記述してはどうか。
(たとえば、拠点的市街地の形成手法とスマートシュリンク手法のリンク等)